

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース



JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

平成 27 年 10 月 7 日 第 5 巻 (第 6 号)

発行：東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

1. 9 月関東・東北豪雨災害に思いを馳せながら
2. バトン寄稿 — Part 4
3. 活動報告書
4. 他団体紹介
5. 災害支援チームからのお知らせ
6. 災害支援ニュース発行のお知らせ
7. 石巻現地職員募集のお知らせ
8. あとがき

「平成 28 年度 石巻現地職員」

募集中！！

詳細は“6. 石巻現地職員募集のお知らせ”をご参照ください。

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ」 発売中！！

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ」 発売中！！

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ」 発売中！！

詳細は“4. 災害支援チームからのお知らせ”をご参照ください。

1. 9月関東・東北豪雨災害に思いを馳せながら・・・

.....

「平成27年9月関東・東北豪雨」で被害にあわれたみなさま
心よりお見舞い申し上げます

.....



常総市の災害に思いを致し、
災害による被害にあわれた方々への支援のありようを考える



災害支援チーム統括責任者
笹岡 眞弓

鬼怒川の堤防決壊などによる水害は常総市の家屋を押し流し、まるで4年半前の東日本大震災のあの日のような光景をテレビに映し出しました。9月27日現在で、まだ避難所は12箇所。多くの方々が不自由な日々を強いられていることを、国民の一人として、ソーシャルワーカーとして痛ましく思います。茨城県の医療ソーシャルワーカー協会は直ちに災害対策に関する本部を立ち上げられ、活動を開始されました。「頑張っ！」はソーシャルワーカーには禁句ではないと思います。どうぞ頑張って下さい。日本医療社会福祉協会の災害支援チームも今までの経験を踏まえご指示があれば、できることは何でもいたします。

生活を根底から覆すような被害にあった時、その回復には多大な時間も、そして多くの人手も必要とされます。東日本大震災で被災された石巻の方々への支援にもまだまだ

多くの時間が必要です。

「最後のお一方まで！」は困難ですが、日本医療社会福祉協会の災害支援チームは当初の目標であった5年間という時間枠ではなく、石巻市が仮設住宅から復興支援住宅への移行にほぼ目途がつくと考えている平成29年度まですなわち平成30年3月末まで、ニーズに基づく支援の継続を決めました。何よりも困難を極める生活を余儀なくされている、被災者と呼ばれる方々に貢献できるならば、共に復興への道を歩める時間を確保したいと思ったからです。

流された石巻市立病院は来年夏ごろ開院予定です。新たな保健医療福祉連携の形を作るための施策も動き始めています。この時に、当協会の職員である医療ソーシャルワーカーは寄与できるスキルを持っています。会員の皆様の更なるご支援を切にお願い申し上げます。

2. バトン寄稿 - Part 4

~~~~ ~~~~ ~~~~

当協会の東日本大震災での支援活動は、5年目を迎えました。それぞれの時期に当協会の会員であった方々が責任者や担当として、現地にて協力員と共に支援のバトンを紡いでくれました。

~~~~ ~~~~ ~~~~

振り返ってもらいました。

.....



社会福祉法人賛育会 賛育会病院

富永 千晶

| | |
|-----------------------|---|
| (2013/1/15~2014/3/31 | 常駐期間 |
| 2013/1/15~2013/3/31 | 現地担当として |
| 2013/4/1 ~2014/3/31 | 石巻市社会福祉協議会へ出向
『災害対策課地域福祉コーディネーター』として) |

東日本大震災が起こった日は、横浜の職場にいました。立ってられない状況で、患者や家族、職員への対応に奔走していたことを思い出します。津波の映像がずっと心の中に残っていました。その後、東京や横浜も計画停電があり、食料など不足していく中で、職場の医療材料等までも入手困難な事態も体験しました。当時、入院透析の受け入れをしていたので本当に日々のことで精一杯でした。しかし、当協会でもボランティアを募集しているとの案内をみて、「何か被災地への力になりたい!」という一心でエントリーをしたことを覚えています。そこから、週1回の事務ボランティアで、現地へも何度か足を運び、事務ボランティアでは現地の様子を伝えながら現地のサポートをすることしかできないのか?と悩んでいました。

発災から2年目の3月に1週間ですが現

地に行ったことで、2泊3日では感じられない多くの在宅避難者の声や生活状況を肌で感じる事ができました。短期間では、自分自身が被災地という場所で様々な経験を積みかせてもらったただただのではないかという印象が強くなってきました。いつしか、長期で活動をしたいという気持ちが強くなり...半年以上かけて退職の準備をしました。医療機関から離れて働くということは人生初めてで、この震災がなければ考えられなかったと思います。

着任した2013年1月15日は、大雪でした。成人の日で多くの晴れ着を着た若者をみながら大きなリュックを背負い、遅延を心配しながら東北新幹線へ乗ったことが今も鮮明に思い出せます。パーパードライバーだったのでアイスバーンにおびえながら、3月までは当協会の現地職員として在宅避難者

への自宅訪問などの業務を行ないました。この年の3月は当協会の臨時総会が石巻で開催されこともあり、全国の会員と会う機会があり支援の視点などたくさんの学びを得た時期でした。3月の中旬には、4月から石巻市社会福祉協議会へ出向してほしいと笹岡統括から話がありました。正直何をするのだろう、役割は何だろう…と不安はありましたが、石巻での活動目的は「役に立つこと」と決めていたので二つ返事で引き受けました。

2013年4月から石巻市社会福祉協議会に勤務となりましたが、医療福祉と地域福祉の感覚の違いに慣れず、数ヶ月間は身の置き所がない状況でした。医療福祉の視点や個別援助を伝えることはこの時点では必要とされず、最初に言われたことは「石巻が統合する前のそれぞれの土地の歴史を知ること、被害があるなしではなく風習や考え方を理解すること」等を、地域福祉コーディネーターと一緒に学ぶ日々が続きました。各仮設住宅エリアでの生活課題を”個”でかかわるのではなく、”集団（隣近所、自治会長や民生委員、訪問支援員）”で改善できることを『協働』していくこと。指導ではなく、生活している人々の気づきをキャッチする『感覚を持つ』ことなど、地域福祉の奥深さと「待つ」ことの大切さを学びました。そして、地域福祉コーディネーターが日々感じていること考えていることについて一緒に思考の整理をすること、一緒に企画することができるようになったのは、秋頃からでした。

沿岸部でも、ひとつひとつの浜によって風習や考えかた、人の支え方など違いを感じることができました。石巻出身のスクールカウ

ンセラーから教えてもらった“おだずもっこ（悪がき）”と“いしあたま（融通の利かない）”の話から、同じ石巻でも住むところが違えば子どもの考えも違うんだと感じました。浜にいる子は、ほとんどが”おだずもっこ”で、みんなで「わーっ」と海に入ったり釣りをしたり…「父ちゃんみたいに、漁師になる！」と『地域が家族だ！』という環境の子どもたちです。他方の”いしあたま”はどちらかというところ「まち」や「畑」で暮らしていて、ゲームをしたり個々の考え方を尊重するような遊びや生活をしている『大人しい』（これは都会でもありますよね）子どもたちです。

このように分けられる子どもたちの環境ですが、この震災で”おだずもっこ”たちが浜で生活できなくなったということは、今までの生活習慣のままでは生活できなくなったということです。自分たちの浜のルールではなく、まったく違う価値観の中で戸惑いながら避難生活を続けることで苦しんだ子どもたちもいて、スクールカウンセラーと学校の先生達で協議を重ねたという話を聞きました。石巻には「狩猟（漁）」「農耕」「都会」と大きく分けられる価値観をもつ人たちが在り、震災をきっかけに、「仲良く学びましょう！」の実践は容易ではないと想像できました。

そして大人は、生活のためとはいえ、”漁師”が陸に上がることの苦しさ、また、イチから借金をして牡蠣の養殖をすることを決断すること…。それぞれの生活が常に望んで決断していたのではない中で、『新しいまち』を作りましょうとは簡単には言えませんでした。また外部からの支援者としてこの先、

ずっと関わることの基準や答えが出せぬまま、冬を迎えました。任期最後の3月は正直、何をしたのか？振り返りながら何もしていなかったようにも思えます。ただ、石巻市社会福祉協議会での1年間は、まちの空気を感じる感覚とそこに暮らしている仮設住宅の人々や住んでいる人の語ることをよくききました。生活課題がある人も、時には支える側にいたり…そして専門職の人たちと一緒に悩み、考え、ともに歩ませていただきました。「今の石巻」にこれからもそっと寄り添って、見守っているということを学ばせても



らったのだと思います。

東日本大震災ボランティアに参加したいと相談した時に「今の感情だけで、ボランティアに参加してはだめよ。参加すると決めたら、ああ・・・ここまで復興したねと思える日まで気持ちを持ち続けていられるの？」と先輩の医療ソーシャルワーカーに言われました。軽い気持ちで関わっては被災された方々に失礼です、と諭されたあの時から始まっています。私は復興まで・・・それよりもずっと、この想いをもち続けていきたいと思えます。

3. 活動報告書

仙台循環器病センター

長谷川 敦

活動期間 2015/8/19



午前 定例 石巻 男のあそぼう会、
午後 事務所に戻り解散。

今回は、石巻准看護学校調理室をお借りしたの 夏のチキンカレー作り。参加者 6 名とスタッフ 4 名、計 10 名の参加でした。私の役目としては、活動時間前に支援員と共にスーパーへ行き材料の買い出しから始まりました。他のスタッフは、いつものように対象者の迎えをしながら現地、調理室へ向かいました。

当日は、夏の高校野球、地元の対戦時間にもあたり、料理と対戦状況の確認をしながら

の活動であり、リアルな戦況の情報、調理をしながら楽しい雰囲気の中、それぞれがいつもと同じように自ら役割を見出していました。昨年より何度もおじゃましている私は、グループの見守りをしながら調理の補助を行います。参加者自身が自分でできることをする、このグループではいつも想いますが、これが自然にできて、メンバーそれぞれがお互いを受け入れています。だから、月1回程度の活動でも継続している活動と思われま

す。
地元、宮城県協会員として、前日本協会理

事として、月 1 回の活動に参加できることは大変ありがたいことと認識をしております。

また、活動日を通してではありますが、現地支援員のみなさまの日々の支援活動の様子、日々の支援活動の葛藤等が聞かれ、私のワーカー業務に生かせる触れ合いも次第に楽しいものになっております。宮城県内でも現地石巻に伺うには、片道 1 時間 30 分程度かかりますが、時間をかけてでも伺いたくなる不思議な魅力のある会と毎回のことで、想います。

今、この報告書を書いている時期に大雨洪

水警報が出されました、茨城・宮城は堤防が決壊し、近隣病院も一部水深し外来閉鎖、近隣道路で冠水被害が出てて厳戒態勢です。水害でお亡くなりになられた方々には、ご冥福をお祈り申し上げます。災害はいつ起こるかわかりませんが、私達でできることから進めていくしかないとも思います。

報道を見ますと、まさに東日本大震災を思いだし、震えを覚えます。全国のみなさまには、大変お世話になりました。今回、活動の報告書ではありましたが、時期的に重なりましたので一部触れさせていただきました。

4. 他団体紹介



一般社団法人 からころステーション

【設立目的】

設立趣意書

災害によって生じた甚大な被害に対し、各産業、教育、医療など、あらゆる分野で復興に向けた取り組みが進められています。

宮城県内の精神保健医療福祉分野による取り組みも例外ではなく、被災された医療機関、事業所の復興にむけた物資供給、人的支援が行われるとともに、避難所や仮設住宅等へのこのころのケアチームの派遣など、地域ニーズに即した継続的な支援などが実施されているところです。

このような実状をふまえ、私たち震災このころのケア・ネットワークみやぎでは、被災された方々のメンタルヘルスに関わるさまざまな支援、ならびに地域で活動されている方々のネットワーク形成、情報の共有などに主として取り組んでいます。

そうした地域の拠点として柔軟で多様な活動に長期間にわたって持続的、継続的に取り組んでいきたいと考えています。

引き続き募集しております。

平日のみの活動ですが1～2ヶ月に1回でも構いません。

ご協力お願い致します。

【2. 災害支援チーム会議開催のお知らせ】

10月13日（火）19：00～21：00 於：協会会議室

【3. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』、
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』、
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』の

販売を行っています！

発災から2011年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011年10月から2012年12月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地SW



との協働の記録を『バトンⅡ』に、

2013年1月から2014年3月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

バトンⅠ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

バトンⅡ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47

バトンⅢ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54

【4. facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。

URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>



6. 災害支援ニュース発行のお知らせ



次回発行予定 10 下旬

7. 石巻現地職員募集のお知らせ

.....

平成 28 年度の石巻現地職員を募集しております。

詳細は下記にてご確認ください。

職員募集:URL: http://www.jaswhs.or.jp/guide/info_detail.php?@DB_ID@=297

8. あとがき

.....

災害支援チーム事務局から

編集担当 金子

2011年3月11日の東日本大震災から4年半を迎えた9月11日、関東・東北地方は9月9日から続いた、過去に誰も経験したことがないような豪雨（「平成27年9月関東・東北豪雨」）被害にみまわれていました。複数の県で河川は氾濫し、茨城県では堤防が決壊し、常総市では7割の方が被災なさいました。ニュースを見聞きし、私同様にあの日を思い出した方も多いのではないのでしょうか？

さて、9月12日の朝日新聞に「東日本大震災から4年半」を迎えた岩手・宮城・福島の特集記事がありました。3県で「仮設 今も6.8万人」居住、「復興住宅、完成4割弱」の小見出しがあり、バトンⅢの表紙にもなった「石巻市 開成地区のプレハブ仮設住宅」の写真が掲載されておりました。記事に復興庁の担当者の話として「阪神大震災復興とは事情が違う。津波に流された元の地域には住めず、高台の敷地を一から整備しなければならない」とありました。復興住宅の完成を仮設で待つ人々はまだしも、復興住宅入居抽選に漏れ仮設に住み続ける人々や仮設から仮設へと住替える人々にとっての復興は先の見えないトンネルのその先にあるようです。



東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 27 年 10 月 7 日 第 5 巻（第 6 号）
作成 日本医療社会福祉協会
災害支援チーム事務局